

2-6

ボランティア

生きがい

利用者・ボランティア・職員がともに幸せになるために

介護施設における3者の関わりと生きがいについて

軽費老人ホーム 至誠和光ホーム

発表者：企画調整担当 大澤ゆき	共同研究者：ボランティアコーディネーター 寺澤 育代
所在地：東京都立川市錦町 6-28-15	共同研究者：ボランティアコーディネーター 齋藤 佐代子
TEL：042-527-0035	E-mail：shisei-home@shiisei.or.jp
FAX：042-527-2646	URL：http://www.shisei.or.jp/

今回の発表の施設 またはサービスの 概要	立川市にある特別養護老人ホーム ・至誠特別養護老人ホーム：利用者 150 名、至誠キートスホーム：利用者 70 名 ・ボランティア活動人数 年間延べ約 10,000 人
----------------------------	--

〈取り組んだ課題〉 ・ボランティア活動をもっと活性化したい ・利用者・ボランティア・職員の相互の関わりの中から、介護の仕事の価値や、それぞれの生きがい観をみつける。 〈具体的な取り組み〉 ・調査実施期間：平成 20 年 10 月 1 日（水）～11 月 5 日（水） ・調査対象：利用者（至誠特養 10 人／キートス 5 人） ボランティア（至誠特養 91 人／キートス 101 人） 職員（至誠特養 66 人／キートス 43 人） ・調査方法：ボランティア・・・アンケート調査とインタビュー 職員・・・アンケート調査 利用者・・・インタビュー調査 ・調査手順： ・ボランティアと職員へアンケートを配布、回答していただく。 ・利用者へのインタビューは、学生にアルバイトを依頼。インタビュー時間は、1 人当たり 30 分程度。インタビューが 1 人 1 人作成 ・費用：インタビューへの謝金 1 人 5,000 円×3 人 （他交通費実費） なお、倫理的配慮に関しては、調査の目的とプライバシーの遵守を依頼時に口頭で約束している。	〈活動の成果と評価〉 調査から、以下のことがわかった。 ・職員：介護の仕事に対してやりがいを感じている。（8 割強）反面、仕事のストレスを感じている（5 割）。また、ボランティアは利用者にとって大切な存在だと感じている。（10 割）介護は素晴らしい仕事だと感じつつも（9 割）、利用者が生活を楽しんでいるかどうか確信を持ってない（5 割） ・ボランティア：活動を通じて成長していると感じる（8 割）職員はボランティアとの関わりを大切にしている（7 割）利用者から信頼されていると思う（6 割） ・利用者：ボランティアがくることを嬉しいと感じている。→適度な社会的緊張が得られている。ボランティアが来ることで、良い雰囲気になっていると感じている。 ・関係性の中での生きがいについて：ボランティアは外からのポテンシャル（潜在能力、可能性）を運んでくれる存在。そのボランティアが施設に馴染んでいくためには、職員の感謝の言葉や橋渡し役としてのボランティアコーディネーターの役割が重要。施設は、生活の場であり、社会とのつながりがある。3 者が立場を越えて、人としての関わりを大切にすることが、お互いの幸せや生きがいにつながるのではない。 〈今後の課題〉 ボランティアコーディネーターが現場の職員とボランティアの橋渡し（コーディネート）をいかにスムーズにできるか。スタッフ 1 人 1 人がボランティアを大切にすること。関わる人達のニーズの把握。 〈参考資料など〉
--	--

【メモ欄】